

令和4年度

(2022年度)

慶應義塾大学看護医療学部

2年次学士編入試験

ZOOMセミナー資料

高島様

お世話になっております。

本日合格発表の慶應大学看護医療学部の社会人入試に合格しました。

先生から過去問をいただいたことが、時間配分を考える上で大変役立ちました。

ありがとうございます。

ヴィクトール・フランクルの著作が出題されたのですが、ちょうど最近読み直したので、ヤマが当たった感もあります。

①高島様

お世話になっております。

聖路加ですが、筆記試験で思わぬ失敗をしまして、結果は不合格であることは自明です。

失敗を踏まえていろいろ考えまして、慶応には合格しましたが、他校の受験も検討したく

引き続きよろしく申し上げます。

聖路加の面接では、その場の応対も、提出資料も、3人の面接官から高評価を得ました。

国際医療研究センターの看護助手になることや「土の器」も語り、本気度は十分伝わったようです。しかし、筆記で失敗しました。かなり終盤になってどうしても書き直したくなったのですが、「あと10分」という案内を聞いたら、書き終わらないのではないかと緊張感で思うように書けなくなってしまいました。こんなことが起きるとはと自分でもショックでした。記者の時には、原稿でミスをするということは一度もしたことがありません。ところが、重大な局面でこんなことを起こすなら看護師にも向いていないのではと、落ち込みました。そこで、これから看護助手として働きながら自分の適性を見極めます。

この失敗と同等に悩ましく思っていることがあります。それは聖路加においては、面接で「希望の診療科だけでなく、聖路加への就職、そもそも就職自体を保証できません。それでもいいですか」と問いただされました。私はもちろん「構いません。覚悟しています」と答えましたが、これは面接での脅しなのでしょう。それとも、年齢の高い学生が増えて、病院側から不満が出ているのでしょうか。コロナの現場には50代以上の看護師は感染後の悪化のリスクが高いので投入しない

と聞いています。それでも慶応に合格できたのは、慶応は看護師にならない卒業生が多いという特徴があります。

私も当日の調査用紙や面接で「総合大学の利点を生かし、コミュニティーナースの事業性を研究したい」といかにもSFCの学生らしい志望理由を挙げ、教授陣の関心を引くことができたように思います。

繰り返しになりますが、看護助手として働きながら、自分の適性を見極めます。

引き続きよろしく願いいたします。

...

②高島様

その節は大変お世話になりました。

無事に大学生活を送っております。

今夏、受験される方に向けていくつか情報があるので、お知らせしようと思った次第です。

2021年度の合格者にはもう一人、50代がいたそうですが、その方は入学を見送られたそうです。慶応の教授は「もったいない」と話され、私が入学したことを大変喜んでくださいました。

つまり比較的年齢が高い人で、時間的そして経済的に一日中勉強をする環境が整うのであれば、慶応は望ましい選択肢です。

昨年の面接で「今日はここまでどうやってきましたか？」という意表を突く質問があったことを記憶しているのですが、その意図もわかりました。その教授は「好きな色は？」という質問もするそうです。当意即妙なやりとりができるかどうかで、患者さんとのコミュニケーション能力をみているそうです。

私は質問に対し「電車3本、バス1本を乗り継ぎ、都心を通ることなく自宅からひたすら南下するルートで参りました。2時間ほどかかりますが、横浜市内に住む叔父も応援してくれていますので、入学後は叔父の家にも滞在させてもらいながら勉強に励みます」と答えた記憶があります。

ついでながら、近況報告も。

一部愚痴ですが、慶応の編入生の学生生活の実態と思っておつきあいください。

「解剖生理学」は面白く勉強できました。問題は「看護過程(講義)」および、「実習記録」です。

内容ではなく、学び方や手書き文化に閉口しております。編入生は1、2年次の必修を同時並行で進めるため、期末試験の科目数が多く、試験を終わらせてから「看護過程」のレポートに取り組まざるを得ず(私以外の20代編入生も同じ状況)、不眠不休で18時間鉛筆を握り続けました。社会人経験者からすると、不要な情報はそぎ落としていくことで、問題点が明らかになり、協働する人たちとの情報共有もスムーズになると考えます。しかし「看護過程」の学習にあたっては、見落としがないよう一度すべてを書き出すという作業を求められます。慶応の場合はゴードンの機能的健康パターンを使いますが、SOAPで書いた情報をいったん、全11パターンに振り分けてもう一度書き直します。これがすべて手書きです。見落としがないように、という意義はよくわかるのですが、手書きの物理的な負担、および非効率な手書きでの資料作成が精神的苦痛です。

学生生活全般でいえば、どの講義も課題が多く、最低限の家事をする以外の自分の時間はまったく取れません。コロナの感染拡大で、実習前の行動自粛の影響もありますが、とにかく多忙で2年次のアルバイトは無理です。同級生が現役慶応大生であることも影響しています。編入生も、半数が慶応など難関私大を卒業したばかりの22歳で、私以外の社会人経験者も英国の大学を出たエリートです。まだ春学期の成績は出ていませんが、皆さん賢くで試験の平均点はかなり高そうです。

先生方は私の年齢を気にすることなく、ほかの学生と同じように、それでいてどこか面白がってみてくださいるので居心地はよいです。教師も学生に学ぶという、慶応ならではの「半学半教の気風」というのだそうです。これは思わぬ発見でした。図書館の充実もありがたいです。

慶応は、専門学校やその他の大学に比べて実習や演習が少ないのは事実です(基礎実習の教授自身がおっしゃってました)が、コロナ禍でも慶応大学付属病院は病院実習生を受け入れ続けていますので、今だからこそそのアドバンテージはあります。

以上です。

昨年の今ごろ、大変お世話になったことが思い出され、思わず長々と書いてしまいました。

今年受験の皆様にはエールを送り、高島先生のご健康をお祈りしております。

③高島様

お世話になります

今になって思ったのですが、試験当日、わずか30分程度で志望理由や性格などを罫の細かい記入用紙1枚にぎっしり書かされます。もちろん手書きです。手書きでどれだけ書ききれぬのか、実は入学試験の時から見られていたのかもしれませんが。あの書類なんて、今となってはなんてことはないです。慶応の英語もかなり長い手書きですが、それも英語さえ読めればどうってことないです。

たとえば、冒頭の母性のレポートは、A4で70頁超の手書きです。社会人経験が長い方は、PC生活も長いと思います。観念して手書きができるかどうか適性のうちなのかもしれません。読みやすく、細かい文字で、ぎっしり書き込んでくださいと、お伝えください。

慶応にはかつて40代後半の2人の学士編入生がいましたが、大学院に進学したと聞きました。私は訪問看護師を目指していますが、患者さんと向き合いたいという看護師が志望するケースが増えているそうです。そのため、人手不足だから誰でもいいというフェーズではなくなっていると聞きます。それでも慶応が40～50代を入学させるのは、学生に「病棟の看護師になることだけが看護師の道ではない」と説いているからです。ある授業では、メディアへの就職の道も紹介されました。別の授業では、看護師資格を持つ方々が講師を務められましたが、厚生労働省、国際NGO、起業といった国内医療機関外で活躍される卒業生が多数含まれていました。大学院進学への意識付けもかなり強いように思います。だからこそ、私のような変わり種も入学させてくれるのだと思いますが、就職の支援があるとは聞いていません。

聖路加は面接で正直に「就職は保証しません」と言っていますが、慶応はもともと「あなた自身の看護の道を、あなた自身で切り開いてください。総合大学なので学ぼうと思えば経営やデータサイエンスなど幅広い学びが可能です」という構えです。

では私が悩んでいるかということ、そうではなく、この現実は分かっていたことです。就職は自分でどうにかするしかなく(それは20代の就職も同じ)、だめなら介護士資格で働けばいいと割り切っています。医療ニーズの高い利用者のヘルパーに、私はうってつけです。60歳までに大学の授業料ぐらいは取り返せるでしょう。ということで、20～40代の新卒ナースを目指すチャンスがある方とは心持ちが異なります。

面接に向けては、総合大学への進学が魅力的である理由をご用意ください。実際には、必修以外(助産師、保健師コースの必修は取れます!)の講義を受講する余裕はほとんどありませんが、先生たちの耳には心地よいはず。それはつまり、聖路加よりも慶応である理由を意味するはず。助産師、保健師の資格が取れることを挙げた編入生が多いようです。

聖路加は学部の中にW資格は取らせないので、ここは大きな違いですが、これだけでは他の受験生とは差別化できません。

以上

よろしくお願い申し上げます